

台北（台湾）の都市史・資料

【はじめに】

台湾の歴史はごく簡単に言っても、先住民の時代 スペイン・オランダの占拠（17世紀） 明の遺臣・鄭氏政権 清朝の統治（日清戦争後）日本統治（日本の敗戦後）中華民国に復帰 国民党の台湾移動・・・とめぐるしく揺れ動いており、建築的にも中国の様式、風土に由来する亭仔脚（アーケード）、近代洋風建築、と様々な要素が組み合わされている、という印象を持ちます。

その一方で、台北はじめ台湾諸都市の近代的整備は、（良かれ悪しかれ）日本統治下にそのルーツを持っています。総督府の民生部門はつぎつぎとインフラの整備を進め、都市計画・建築面も、市区改正の「台湾家屋建築規則」（1900年）、1936年の「台湾都市計画令」と法令を発し、近代的な都市整備をすすめていったという経緯があります。

そうしてつくられた都市建築も、日本はじめアジアの諸都市の例に漏れず、相当なスピードで更新が行われているようですが、街の要所要所を占める官庁建築（日本統治下の官衙の建築を修復・転用しているものも少なくない）や古い商店街は、「近代台北」の面影をいまだ良く残しているといつてよいでしょう。また当局も、市中心部（博愛特区）や大稻埕その他の歴史的建築物（近代化遺産含め）の保存・活用に努めているとのこと。

今回は、現在の台北の骨格を形成した、近代・台北の都市計画・建築に注目して資料をリストにしてみました。

【日本語文献】

比較的最近のもので、都市・建築史の書籍から。各々の台湾の章を参照されたい。

『アジアの都市と建築』 加藤祐三（編） 鹿島出版会 1986

『全調査・東アジア近代の都市と建築』 藤森照信・汪坦（監修） 大成建設 1996

【論文（日本語）】

近年の『日本都市計画学会論文集』から数編をあげるにとどめる。（他にも相当数ある）

五島寧（1996）「台北の公園道路に関する歴史的研究」

五島寧（1999）「計画技術・制度としての市区改正に関する京城

（1912-1937）台北（1895-1932）の比較研究」

劉東啓・油井正昭（1998）「台北市における都市公園計画に関する歴史的研究」 - 1895年から1945年まで -

黄永融ほか（1996）「清末における台北城の形態計画の理念に関する考察」

黄蘭翔（1992）「日本植民初期における台湾の市区改正に関する考察」

- 台北を事例として -

黄武達ほか（1991）「日本植民地時代における台南都市構造の復元的研究」

【資料目録】

現地で本格的に史料を渉猟したい人は必見。

『臺灣地區都市及區域計畫資料文獻目録』

中華民國都市計畫學會・臺灣大學建築與城鄉研究所（編）1989

【古地図の数々】（右の地図）

これらは台北駅前の新光三越上の展望台で買うことができる。

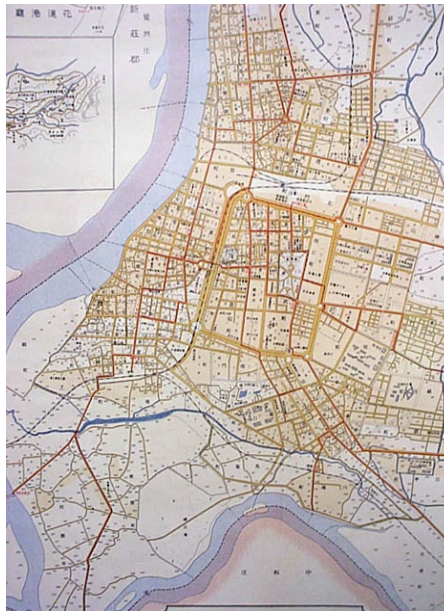
市内巡回の前に一見。

この他にも数種の復刻地図や古写真帳などがある。



臺北市区改正全圖
（1908(明治40)年）

計画路線が赤で示されている。
裏面は一面広告。



臺北市街圖
（1932(昭和7)年）

市区改正の成果と市街の拡張
がよくわかる。



大臺北俯瞰圖
（1935(昭和10)年）

俯瞰のイラスト。始政四十周年
臺灣博覧会の案内つき。

【現地の文献】

現地の大きな書店で手に入るもの。

『日治時代臺灣建築（1895～1945）』（大地別冊5）

傅朝卿（著） 大地地理事業 1999.12

非常に詳細な説明の付いた本。写真もきれい。（写真・右）

『臺北老地圖散歩』（大地別冊） 大地地理事業 2000.9

古写真・古地図の本。

『臺灣都市計畫講習録』（都市與歴史系列1）（写真・左）

黄世孟（編訳） 胡氏圖書出版 1992

昭和12年（1937年）に刊行された法令解説書「臺灣都市計畫講習録」の中国語訳。

『日治時代（1895～1945）臺灣近代都市計畫之研究（論文集）』

黄武達（著） 臺灣都市史研究室 南天書局 1996～（写真・中）

（一）（二）が刊行されている。『臺灣都市計畫歷程之建構』などの続編あり。付図が豊富。

